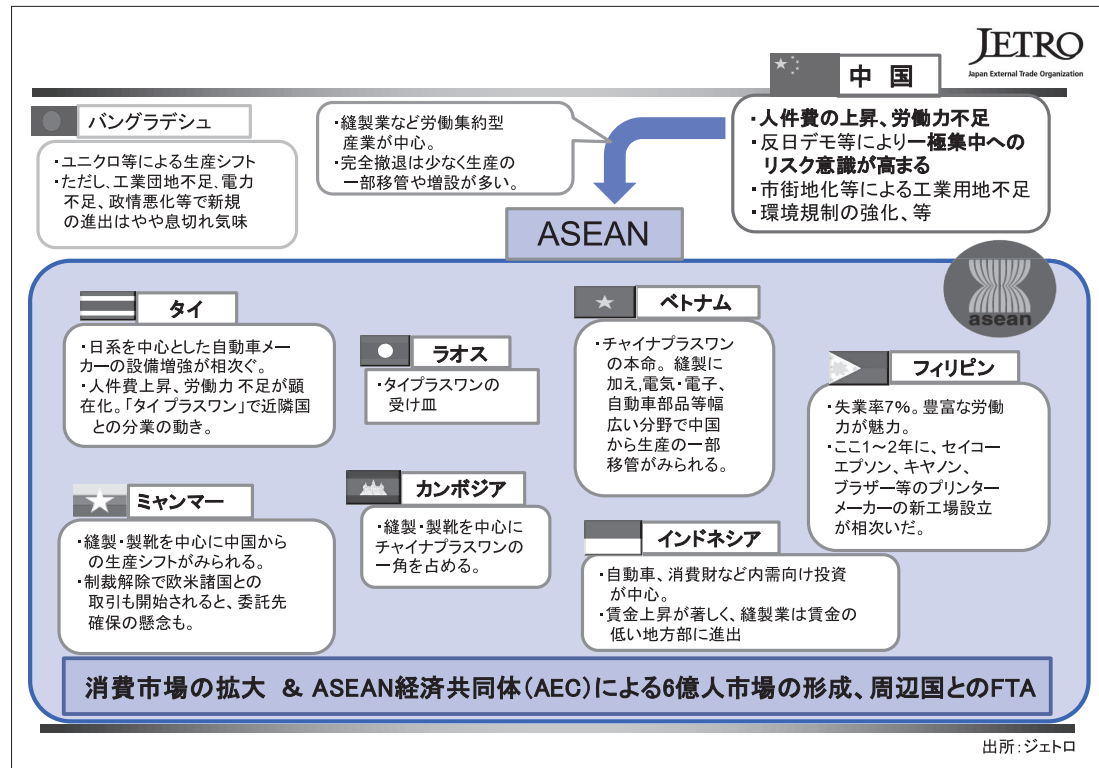


図表1 進出日系企業のチャイナプラスワンの動向



〈日本貿易振興機構(ジェトロ)に聞く〉

ASEAN諸国への進出の留意点とサポートの進め方

課題・リスクを十分に情報提供し

企業の投資判断をしっかりと支援

現 在、中小企業においても海外進出の動きが活発になる中、特にASEANへの進出が相次いでいる。しかし、「日本で商品が売れなくなったから」「海外だと製造コストが下がるはず」と、安易に考えて海外に進出することは避けるべきだ。言うまでもなく、進出国の特徴や進出におけるリスクをよく理解したうえで、慎重に判断する必要がある。そうした中、企業の海外進出を

様々な角度からサポートしているのが、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)だ。ジェトロでは、世界各国の様々な情報提供や、企業の海外進出サポートといったサービスを、原則無料で提供している。

金融機関から見ると、ジェトロは有力な外部専門支援機関の一つ。ジェトロとうまく連携し、企業の海外進出を支援していく必要があるだろう。

本インタビューでは、近年、企業の海外進出が著しいASEAN各国の状況・リスクや、金融機関の担当者がどのようにジェトロを活用すれば効果的なのかを、海外調査部アジア大洋州課の小野澤麻衣課長代理と、企画部企画課の野澤拓郎課長代理に伺った。

● 中小企業の海外進出ニーズが高まりをみせています。現在、ジ

めているのが、ASEANです。例えば、タイでは政府による自動車の初回購入支援策が終了したことなどから2013年に入り販売台数は減少傾向にあるといったこともみられますが、ASEANの消費市場全体は拡大しており、企業活動にそのASEANの需要を取り込もうという背景があるといます。

——具体的にどんな国・地域への投資が進んでいるのでしょうか。

小野澤 「チャイナプラスワン」の進出先の最有力候補となっているのはベトナムです。大きな理由としては、中国と陸つづきとなっており、距離的に近いこと、また人件費が中国に比べて低いことなどが挙げられます。

フィリピンへの投資にも関心が高まっており、2011~2012年に事務機器メーカーなどの新規進出が相次ぎました。フィリピンは、失業率が6~7%台と高く、相対的に人材を集めやすいほか、最低賃金の上昇率も過去5年間で2割程度と他のASEAN主要国に比べ低いことが注目されて

いる理由です。加えて、英語が通じることも大きなポイントです。

一方、タイとインドネシアは、内需が急速に拡大しています。そういった需要を満たすべく、特に日系自動車メーカーの生産が拡大しており、自動車関連の部品サプライヤー、素材メーカーなどが投資を牽引しています。タイからは第三国へも輸出されており、インドネシアでも輸出拠点とする動きがあります。また外食、小売などサービス業の進出も目立っています。

ただし、最低賃金の上昇や労働力不足といった中国と同じような動きはASEANでも起きており、特にタイでは、大規模な労働集約的な生産を行うのが難しくなっています。これを受けて、カンボジア、ラオスといった周辺の新興国に生産拠点を移す動きがみられます。いわゆる「タイプラスワン」と言われている動きです。

メリットばかりでなく、リスクについても把握を

——そうした中、ASEANに進